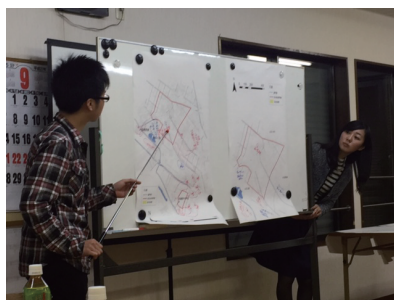


七左七丁目第二自治会、武蔵野中学校 PTA、芝浦工業大学 住快環プロジェクト報告書



(1) プロジェクトの趣旨

以前より七左七丁目の小中学生がいる住民より、学区である武蔵野中学校への通学路の街灯が少なく暗いため、「冬場の通学が心配」という声が数多く聞えてきました。実際通学路の不安が原因で、学区外の富士中や自転車通学が許可されている西中に越境した子供達が多くいます。

七丁目の子供達にとっては地域は故郷であり、地域に住む友人は幼馴染みです。記憶を共有し、生涯にわたりこの地を愛せる大人に育ててほしいものです。そのためには義務教育の間は特別な理由がない限り同じ学校で学ぶことが理想です。また近年、七左七丁目のエリア内でも自動車のタイヤが盗まれる等の被害情報もあり、治安にも不安があります。

このような地域の問題を解決するため、七左七丁目第二自治会では、武蔵野中学校 PTA と共に、芝浦工業大学三浦研究室で行っている住快環プロジェクトに応募しました。住快環プロジェクトとは、地域の照度の問題、騒音の問題、川などの汚染の問題など、地域の様々な問題に対し、住民と共に調査をし、専門的な視点による分析より地域の問題を抽出、解決策をアドバイスする研究機関です。

七左七丁目第二自治会と武蔵野中学校 PTA の連名で応募した問題は、芝浦工業大学三浦研究室の審査が通り、七丁目エリア内と七丁目から武蔵野中学校までの通学路の照度調査を、住民、PTA、芝浦工業大学の協働で行うことになりました。この調査を元に客観的データを取り、これまで漠然としていたイメージを視覚化することで問題を具体化します。このデータを元に、様々な角度から改善策を練り、行政に投げかけ、安心して安全な街と通学路を整備しようと考えています。

(2) 実施の経過

●実施体制

- 企画名称：** 芝浦工業大学住快環プロジェクト
副 題： 「夜間道路照度改善に向けた実測」
主 催： 七左七丁目第二自治会・武蔵野中学校 PTA・芝浦工業大学三浦研究室
共同プロジェクト

●実施の経過

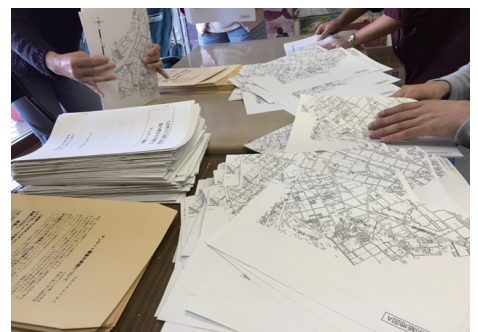
名 称： 事前の打ち合わせ
開催日： 2015年9月16日(水)
開催地： 七左町第二自治会館1階会議室
内 容： プロジェクト決定通知の受取
人 数： 自治会5名、武蔵野中3名、芝浦工業大学2名



名 称： 第1回懇談会
開催日： 2015年10月14日(日) 19:30～21:00
開催地： 七左町第二自治会館2階大会議室
内 容： プロジェクトの趣旨説明、問題点の抽出
人 数： 自治会15名、武蔵野中3名、他自治会会長1名、
芝浦工業大学教授1名、学生5名



名 称： アンケート調査
開催日： 2015年10月26日(月)～11月7日(土) 自治会
2015年10月26日(月)～11月5日(木) PTA
対 象： 七左町第二自治会 289世帯、
七左4～8丁目と新川町1～2丁目に住む武蔵野中生宅
内 容： 住民の主観的な明るさを事前調査
回収率： 自治会回収数107部、回収率37%
P T A 回収数105部、回収率75%



名 称： 夜間照度調査実測
開催日： 第1回 2015年11月23日(月) 18:00～20:30
第2回 2015年11月30日(月) 19:30～21:00
開催地： 七左町七丁目内及び通学路2本
内 容： 照度計を使った実測により客観的データの収集
人 数： 第1回自治会23名・武蔵野中7名、芝浦工大学生8名
第2回自治会17名・武蔵野中4名、芝浦工大学生4名



名 称： 第2回懇談会・懇親会
開催日： 2016年1月24日(日) 14:00～15:30 16:00～18:00
開催地： 七左町第二自治会館2階大会議室
内 容： アンケートと照度調査の結果報告と改善策
活動修了証受取
人 数： 自治会20名、武蔵野中5名、越谷市役所2名、
出羽小PTA会長1名
芝浦工業大学教授1名、学生5名



(3) 芝浦工大三浦研究室の分析結果

●七左七丁目第二自治会内での照度問題

1. **改善優先度1の道路**・・・改善が最も必要な改善優先度1の道路は、次の通りです。
1、葵の里から武蔵野線のガードの先、出羽地区消防団倉庫までの道路。2、出羽地区消防団倉庫より自治会館方面へ向かって100M程の区間。3、7班出羽公園付近の武蔵野線ガード下。以上自治会内に3箇所があり、全ての箇所が武蔵野線のガードが関係しています。原因は武蔵野線のガードの低さに関係していて、ガードより高い位置にある街灯が届いていないようです。対策方法としてはガード下に街灯を付けることです。
2. **改善優先度2の道路**・・・次に改善が必要な区間はセブンイレブン付近の七左衛門通りです。セブンイレブンも近くにあり、照度が足りないという印象を持つ方は少なかったのですが、「よく利用する」道路であるにも関わらず、平均水平面照度が基準に満たしていませんでした。原因としては駐車場などの空き地が多く、周辺に比べ門灯や玄関等がないため街灯に頼るしかないうえ、街灯も車道側を向いていて歩道の照度が不足してしまうようです。対策方法としては、歩道側を照らす街灯の新設をすることです。

●出羽地区から武蔵野中までの通学路での照度問題

1. **改善優先度1の道路**・・・改善が最も必要な改善優先度1の道路は、七左5丁目と6丁目の境界ラインで、七丁目自治会館前より七左町の交差点へ向かう道の、出羽不動尊近くのカーブ付近です。この区間は他の区間より街灯の設置間隔が広く、中学生の通行量が多いので優先度が高くなっています。街灯間隔を狭めるためにも街灯の新設が必要となっています。
2. **調査外の通学路の問題**・・・今回の照度調査では対象外の道路でありましたが、中学生の利用度の多さとアンケートの結果を見て見逃すことができないのが新川沿いの道路です。県道324号線という幹線道路でありながら、川を挟んで歩行者道路があり、極度の街灯不足と雑草等による視界の悪さ、車道から歩行者が見えない、工事区間が多いなど、通学に不安の要素がたくさん挙げられています。武蔵野中の立場からすると、この区間の問題点について黙認できません。対象地区や学校へ注意喚起や投げかけをし、必要があれば独自調査をするなど解決に向けて動いていく必要があります。

(4) 成果

●問題の抽出と様々な発見

- 1. 異なる組織の共同プロジェクトから見えたもの**・本プロジェクトは、七左七丁目第二自治会と武蔵野中学校 PTA といった異なる組織が、芝浦工業大学三浦研究室の専門組織より知識と技術をお借りし、共通の問題をに立ち向かったという共同作業こそが何よりも大きな成果でありました。個人や一つの組織だけでは力もアイデアも限界があるのですが、沢山の組織が関わることで計り知れない力が生まれます。今回の活動は自治会や PTA の会員はもちろん、上部組織の自治会連合会や PTA 連合会や近隣地区センター等にも報告され、そこから更に拡散していくため多くの方がこの活動を知り、興味を持ってもらえます。今回のケースでも上記 3 組織以外で、通学路にあたる七左 6 丁目の自治会長さん、市役所の方々、出羽小学校の PTA 会長さん、武蔵野中学校の PTA 顧問さんなど、様々な方が足を運んでくれました。
- 2. 改善優先度を段階抽出**・「暗い道路を明るくして欲しい」というのはどこの自治会でも同様に思っていることです。しかし市にも予算があるうえ、農家や地権者達との折り合い、電柱の有無など様々な条件もクリアしなければ街灯を設置することができません。今回、芝浦工業大学三浦研究室で発行した夜間道路照度改善に向けたアンケート・実測結果報告書には、単に「暗い」箇所だけ改善するのではなく、事前アンケート調査により使用度の高い道路と照度不足の両面から改善優先度を 4 段階に分けて改善案を掲載してくれました。大切な血税で設置して頂く街灯なので、より効果が高い箇所から解決していくのは大事なことであります。
- 3. コミュニケーションの充実化による意識改革**・街は役所や議員さんが主導で改善するのではなく、そこに暮らす人々の「改善したい」という気持ちと行動が役所や議員さん達を動かし、改善していくのです。沢山の人が集まり話し合い、共通の問題意識を持つ事で大きな力を発揮していくのだと考えられます。今回のプロジェクトは「住民主体」という方向性を打ち出していました。研究室では「受身」では行政も動かないし、街の改善は不可能だという性質を知っているようで、調査だけではなく「住民自らが行動」という意識改革を重要視したのだと理解しました。プロジェクトが修了した後も皆で話し合いながら行動を起こすという理念を継続し、改善を目指して行きたいです。
- 4. 学校は地域の宝**・このプロジェクトを進めていく上で、学校は地域の宝であることを強く認識しました。家族の中に地域の学校に通っている子供がいなければ、学校について無関心になりがちですが、学校こそが地域の子供達を正しい方向に導き、地域を明るくするのです。学校の先生は数年もすれば入れ替わってしまうのですが、学校の周辺に暮らす人々は殆ど動く事はありません。地域が良くなれば子供の質が良くなり、学校が良くなれば優秀な子供が育ち、地域を愛する子供達が増えれば、再び地域のために動く人になります。該当する子供が「いる」「いない」ではなく、地域全体で学校を育てることが街づくりには大切だと感じました。やはり、他人事ではなく、七丁目に暮らす方々全員で、学校に通う子供達が安心・安全に通学できる環境整備をすることが大切です。七左七丁目では出羽小学校と武蔵野中学校への応援・協力をし町全体で学校をバックアップする必要を感じました。

(5) 今後の課題等

●終わりでなく始まり

1. **今後の動き**・・・9月から始まった一連のプロジェクトは1月24日の第二回懇親会に立派な活動報告書と活動修了証を頂き無事終わらせる事ができました。しかし、ここまでの作業は問題を明らかにしただけであり、この先は私たち自身が動く事で問題解決に向けて効率良く前進していきます。また、行政にお願いするばかりではなく、通学路上のお宅に、子供達の通学時に門灯を点灯していただくなど、自分達でできる事は自分達で行う事も大切であります。そのためにはプロジェクトが修了しても、これまで同様に皆さんが同じ方向を向きアイデアを出し合い、動いていかななくてはなりません。
2. **市役所へのアピール**・・・住民主体の姿勢は勿論のことですが、やはり街灯の少なさによる照度不足のため危険が認められる場所は、市役所に直訴する事も重要であります。市役所も限られた予算の中、数多くの要請を受けているので優先順位をつけられない状況も理解できます。こんな時今回の客観的データがあるので、アピール材料となり、かなり有利に進められるのではないのでしょうか。
3. **プロセスの重要性**・・・この度のプロジェクトは実地の経過で示したよう、懇談会2回、事前アンケート、照度調査2回といったように長いプロセスを経て問題点を抽出してきました。実は「やってもらう」のではなく、長い時間をかけて皆さんの気持ちと方向性を一致させて問題に取り組んでいくプロセスこそが街を変えていくのには大切なことでした。今回は通学路の照度調査でしたが、街に起こっている様々な問題を解決していくには、役員・幹部の力ではなく、そこに暮らす人々が一つの方向を向いて動き出した時に解決していくのです。

(6) プロジェクトの総括

本プロジェクトは街と通学路における照度の問題解決に向けて船出をし、多くのプロセスを経て、第二回懇談会において実測結果を分析し改善方法の提案とともに報告され修了しました。第二回懇談会では市役所道路交通総務課より二名参加して頂き、ダイレクトに自治会と武蔵野中の問題を聞いてもらうことができました。また、直接的ではありませんが、今回照度調査をした二本の通学路を渡す道（出羽地区消防団倉庫～出羽地区センター方面に向かう道）に4本の街灯が設置される事が決まりました。

照度問題は数多くある自治会の問題の一部であり、氷山の一角にすぎません。しかし、今回のように住民の方々が「自らの手で問題を解決しよう」という気持ちになり、行動を起こせば必ず良い方向に進んでいくことを学びました。今回の経験が一過性のものではなく、質や形式は変化しつつも継続していき自らの手で安心・安全に暮らせる街づくりを目指していきたいと思えます。